

# 奈良・平安彫刻の文化史的研究

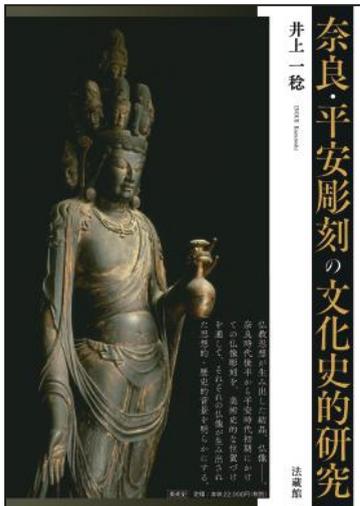
美術史

いのうえ かずとし

井上一稔著

▼A5判・上製カバー・860頁・定価二四、一〇〇円

2025年3月刊行



仏教思想が生み出した結晶、仏像。奈良時代後半から平安時代初期にかけての仏像彫刻を、美術史的な位置づけを通して、それぞれの仏像が生み出された思想的・歴史的背景を明らかにする。口絵16頁・図版330点余。

## 【目次】

序章 口絵

### 第一部 奈良時代後期仏像にみえる思考

- 第一編 鑑真和上と戒律文化の仏像
  - 第一章 鑑真和上像をめぐる
  - 第二章 鑑真和上像追考
  - 第三章 唐招提寺木彫群の宗教的機能について
  - 第四章 湖北の古代彫像——鶏足寺伝薬師如来立像と戒律
  - 第五章 戒律文化と仏像——奈良時代を中心に
  - 第六章 聖林寺十一面観音立像とその造像背景——京田辺市・観音寺像と共に

### 第二編 古密教の観音菩薩像

- 第七章 聖林寺十一面観音立像の台座・光背——天平期荘嚴具の試論として
- 作品解説一 岐阜・美江寺 十一面観音立像
- 第八章 奈良国立博物館蔵十一面観音檀像について
- 第九章 十一面観音の表現——天平期を中心としてその前後
- 第十章 奈良時代の「如意輪」観音信仰とその造像——石山寺像を中心に
- 第十一章 広隆寺不空罽索観音菩薩立像

### 第二部 平安時代前期仏像にみえる思考

- 第一編 密教の観音菩薩像
  - 第十二章 室生寺からみた古代山寺の諸相——龍神と塔と観音
  - 作品解説二 室生寺金堂伝釈迦如来立像——由来を中心に
  - 第十三章 平安前期における「十一面儀軌」「千手儀軌」の請来をめぐる——初期比叡山を中心に
  - 第十四章 園城寺千手観音立像をめぐる——初期比叡山における千手観音信仰
  - 第十五章 向源寺(渡岸寺観音堂)十二面観音立像の図像解釈学的研究

第十六章 観心寺如意輪観音坐像と檀林皇后の夢

第十七章 観心寺如意輪観音坐像の成立

第十八章 新出・石山寺如意輪観音坐像をめぐる

第十九章 天台の中台八葉院形聖観音坐像について

### 第二編 密教の如来像と明王像

- 第二十章 神護寺「弘仁資財帳」・盛淳勘出「承平実録帳」と金堂薬師如来立像
  - 第二十一章 勝持寺薬師如来像について
  - 第二十二章 螺髮宝冠阿弥陀如来像について
  - 第二十三章 宝冠阿弥陀如来像新考
  - 第二十四章 新出・福知山市観音寺不動明王立像について
- 終章
- 図版出典一覧／初出一覧
- あとがき
- 索引

### ◆著者略歴

井上一稔(いのうえ かずとし)

一九五六年三重県名張市に生まれる。一九七四年三重県立上野高等学校卒業。一九七九年同志社大学文学部文化学文化史学専攻卒業。一九八一年同志社大学院博士課程前期修了。一九八三年同博士課程後期中退。滋賀県立琵琶湖文化館学芸員、東京国立文化財研究所研究員・主任研究員、奈良国立博物館主任研究員を経て、一九九九年同志社大学助教授、二〇〇五年同教授、現在に至る。

二〇一七年から文化審議会文化財分科会第一専門調査会委員。著書に『日本の美術312 如意輪観音像 馬頭観音像』(至文堂一九九二年)、論文に「清涼寺釈迦如来像と龕然」、『方法としての仏教文化史』勉誠出版、二〇一〇年「平安時代の牛頭天王」、『日本宗教文化史研究』29、二〇一一年、「京都大原野・勝持寺薬師如来坐像考——慈円・薬師行法との関係」、『仏教芸術』331、二〇一三年)など。

注文書	
(書店印)	
様	冊
ご担当	
井上一稔著	
法蔵館 定価二四、一〇〇円	
奈良・平安彫刻の文化史的研究	
ISBN: 978-4-8318-6334-5 C3021	
お住所	お名前
お電話	

ご注文はFAX:075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入  
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458  
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp